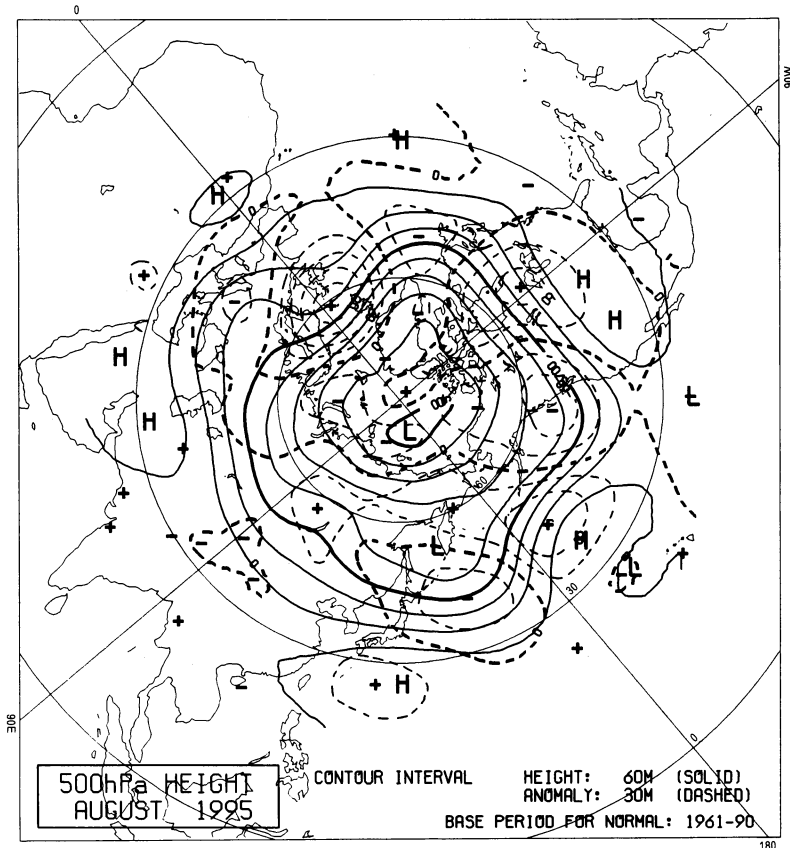


1995年8月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差。単位m)

表 1 1995年8月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	21.1	3.1	2.4	31	60	1	カサブランカ	—	—	—	—	—	—
マドリード	25.2	1.4	1.2	11	124	4	バマコ	25.6	0.0	0.0	310	112	—
ワルシャワ	18.6	1.3	1.2	54	90	—	プレトリア	15.2	0.7	0.5	4	74	3
イスタンブール	23.8	0.8	0.7	15	57	3	バンクーバー	—	—	—	—	—	—
モスクワ	16.8	0.5	0.3	66	89	—	セントルイス	28.8	3.8	2.4	115	160	5
オデッサ	21.8	0.6	0.5	30	89	4	サンフランシスコ	17.2	-0.4	-0.5	0	0	3
ニューデリー	28.5	-1.2	-1.5	577	227	6	ニューヨーク	26.2	2.1	2.3	3	3	0
カルカッタ	29.6	0.5	1.0	271	78	3	メキシコ	17.0	0.5	0.8	233	120	5
ボンベイ	28.4	1.1	2.8	262	57	2	アスンシオン	20.3	1.3	0.7	10	15	1
ホンコン	27.1	-1.3	-2.6	1027	262	6	プエノスアイレス	11.0	-1.2	-1.2	31	45	1
チャンチュン	21.8	0.5	0.4	85	67	2	ホノルル	28.5	1.0	1.7	11	99	2
ベキン	25.4	0.8	1.1	120	66	2	タヒチ	—	—	—	—	—	—
シャンハイ	—	—	—	—	—	—	ダーウイン	25.3	-0.7	-0.8	7	91	5
バンコク	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	9.2	2.2	3.1	5	10	0
マニラ	26.7	-0.6	-0.8	—	—	—	ショウワキチ	—	—	—	—	—	—

8月の世界の天候

北半球月平均 500 hPa 高度場を見ると、極付近は負偏差に覆われ、イギリス付近で強い正偏差となったほか、北アメリカ東部、太平洋北東部、日本の南で正偏差となった。日本の南海上から北アメリカ大陸にかけて盛夏期に現れやすい波列状の偏差パターンが見られた。

①西シベリアの高温

②モンゴルから北日本にかけての多雨

③日本南部の高温

西シベリアやシベリア東端部で平年より 2°C 以上高い気温となった。また、日本の本州からその南方では高温少雨となった。一方、モンゴルから北日本にかけては多雨となり、中国北東部や朝鮮半島では洪水の被害が発生した。

④インドからバングラデッシュの高温

アジア南部では高温となったところが多く、またインドでは南部と北部で多雨、中部で少雨となった。

⑤ヨーロッパ西部の高温

全体に高温傾向のところが多かった。ヨーロッパ西部では高温少雨となり、ロンドンでは月降水量 1 mm (平年比2%) となった。イギリスでは水不足、スペインでは熱波による死者が伝えられた。地中海沿岸部は

多雨傾向の所が多く、スペイン東部やイタリアなどで中旬に大雨や洪水の被害が報じられた。

⑥中東からアフリカにかけての高温

中東やアフリカ西部、アフリカ東部など広い範囲で前月に続いて高温となり、ザンビアのリビングストーンでは月平均気温 22.5°C (平年差 +3.2°C) となった。

⑦アメリカ合衆国の高温

⑧アメリカ合衆国南東部からベネズエラが多雨

アメリカ合衆国中西部や北東部では平年より 2°C 以上高い気温となり、また少雨の所が多かった。ニューヨークでは月降水量 3 mm (平年比3%) となった。アメリカ合衆国南東部の大西洋岸やメキシコ、カリブ海東部、ベネズエラなどでは多雨となった。

⑨アルゼンチン北部の少雨

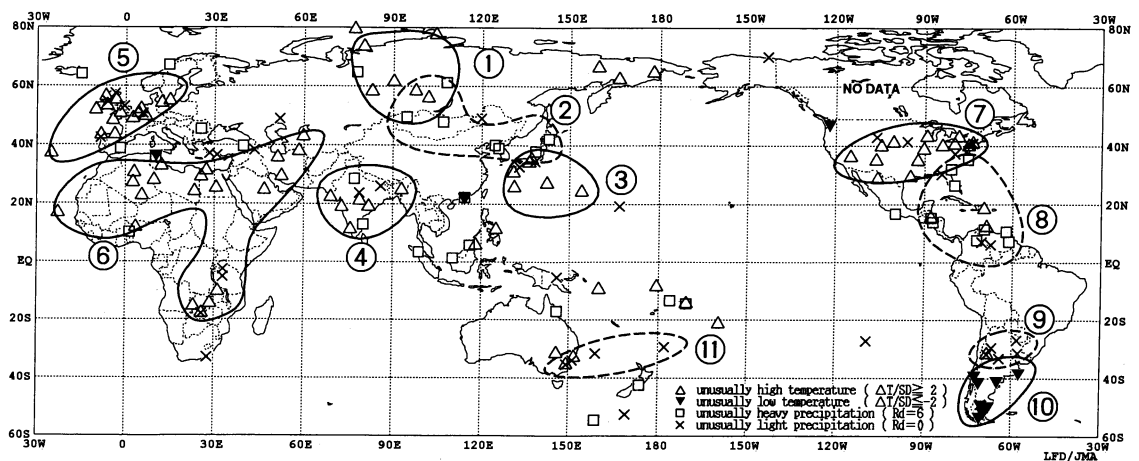
⑩アルゼンチン南部の低温

アルゼンチンでは低温となり、強い寒波により家畜数十万頭が凍死したことが伝えられた。

⑪オーストラリア東部からメラネシア南部にかけての少雨

オーストラリアやポリネシアでは高温となった所が多く、ニュージーランド南部では低温傾向となった。

(気象庁長期予報課 神野 正樹)



1995年8月の世界の異常天候分布図

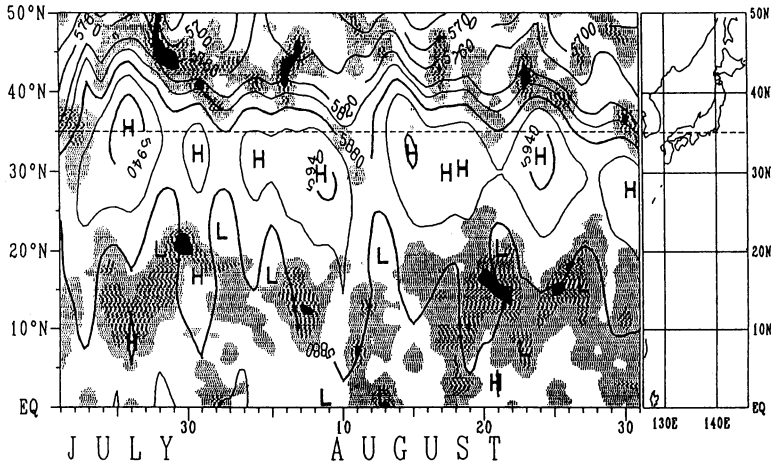
図中の番号は、本文中の番号と対応している。

△: 高温 ▼: 低温

□: 多雨 ×: 少雨

1995年8月の気候表の説明。平均値は、1961~1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。

1995年盛夏期の日本付近の太平洋高気圧の盛衰



第1図 500 hPa 高度と上層雲量の緯度時間断面図
(図の見方については本文を参照のこと)

東日本や西日本では梅雨明け以降、連日晴れて暑い日が続き、多くの地点で8月の月平均気温の高い記録を更新した。東京などでは、真夏日(日最高気温30°C以上)の連続記録の更新もあった。このような天候をもたらした日本付近の太平洋高気圧の盛衰を上図から見てみる。

上図は、500 hPa 高度の緯度時間断面図に上層雲量(気象衛星ひまわり5号で観測した400 hPaより上層の雲量)の緯度時間断面図を重ねたもので、高度、雲量ともに130°Eから140°Eで平均した値を使用している。等値線は500 hPa 高度を表しており、等値線間隔は30 m(5820 m以上)または60 m(5820 m以下)になっている。500 hPa 高度からは主に太平洋高気圧の盛衰を知ることができる。また、ハッチパターンは上層雲量を表しており、薄いハッチは雲量20%~50%、濃いハッチは50%~80%、黒い塗りつぶしが80%~100%となっている。上層雲量からは、日本付近では

前線帯の位置や活動を、低緯度では熱帯の対流活動の様子を見ることができる。

上図を見ると、7月下旬の前半に太平洋高気圧が一気に強まって前線帯が北海道の北まで北上した後、35°N付近は太平洋高気圧に覇われる日が続いたことがわかる。8月11日頃には一時的に太平洋高気圧が弱まり、寒冷前線が日本の南岸まで南下したが、その後は再び太平洋高気圧が日本付近で強まり、この状態は月末になるまで続いた。

また、7月下旬の中頃には北海道の北まで北上した前線は、8月初めには40°Nまで南下した。その後は40°N付近が前線帯となり、周期的に前線の活動が強まった様子がわかる。このため、北日本では8月に入ってからも曇りや雨の日が多く、北海道では低温になった地域もあった。

(気象庁長期予報課 藤川典久)